

第3章 今後の活動に向けて

3-1 活動の成果

3-1-1 保存支援活動

現在までに4棟の住宅の所有者から依頼を受け、保存活用に関する調査・コンサルティングを行った。そのうちの2棟について、現況実測調査を関東学院大学工学部建築学科の黒田研究室の協力で、改修計画の作成を行った。内1棟は2003年1月着工予定である。（*尚、改修計画の実設計・設計監理については、実経費のみの非営利で行う）

3-1-2 行政への協力

文化財保存行政をはじめとする、横浜市との連携体制の強化を目標としている。行政は常に人材不足や追跡調査の困難さなどの問題を抱えている。会では横浜市教育委員会並びに都市デザイン室との連絡を密にし、協力を心がけている。会の紹介で戸塚区の洋館付き住宅「伊東邸」が横浜市歴史的建造物に認定（平成14年度）された。昨年より、横浜市教育委員会歴史的資産調査会のメンバーで近代和風建築担当の吉田鋼市教授（横浜国立大学）を会の学術顧問の一人として迎えている。また、会では居住者とのつながりの中で大正・昭和のくらしの道具の寄贈を多く受けてきた。これらの道具は横浜市緑政局が磯子区の洋館付き住宅である「旧柳下邸」を改修し、建設した郷土資料館に展示品として寄贈した。今後はさらに連携体制を密にし、行政と市民をつなぐ中間領域活動を展開してゆく予定である。

3-1-3 各区現地調査

既存の建物リストを基に、鶴見・神奈川・中・西・保土ヶ谷・磯子の各区において、外観目視調査を行った。調査対象は群として比較的まとまっている区域に限定される為、区内の悉皆調査では

ないが、現在までに200棟あまりの調査記録がデータベースとしてまとめられている。また、調査対象家屋の所有者に対しては会報を送り、ことあるごとに直接出向いてヒアリングを行うなど、長く住み続けるための住まい方のノウハウを情報交換し、保存活用の啓発を心がけている。加えて、追跡調査も兼ねた見学会を毎年開催している。

3-1-4 啓蒙活動

前記にある様に勉強会、シンポジウム、展示会、体験学習会等多種のイベントを開催している。洋館付き住宅の良さを一人でも多くに広めると共に、会員の知識向上にも勤めている。また、これらの活動の中で他活動団体、NPO、住宅関連企業、大学、高校等からの協力要請も多く、その反響の大きさに会の社会的責任の高まりを実感している。会報を送り、ことあるごとに直接出向いてヒアリングを行うなど、長く住み続けるための住まい方のノウハウを情報交換し、保存活用の啓発を心がけている。加えて、追跡調査も兼ねた見学会を毎年開催している。

3-2 今後の展開

これまで行ってきた、保存支援活動・継続調査・イベント開催・行政への協力等の活動を継続すると共に、今後特に力を注いで行きたい分野は、教育活動である。

これまでの活動を通して我々は、ある根本的な問題に突き当たった。住民の景観や歴史的建物に対する意識レベルの問題である。良い住まいの環境を皆の財産として作り、未来へ継承してゆく事の大切さを伝える教育（住環境教育、建築文化教育）は、残念ながら日本は欧米に比べ大幅に遅れをとっていると言わざるを得ない。我々はこのことがまちづくり、地域づくりにおける最も根本的な問題であると認識している。地域の財産である洋館付き住宅を通じて、生涯教育にとどまらず、学校教育（特に小学校教育から）の分野における活動を展開してゆく予定である。これまでも県立

総合高等学校等と協力して教育プログラムを試験的に行ってきたが、来年度以降はより本格的に実施して行きたい。その具体的な一案として挙げられるのは、体験教育ミュージアムの立ち上げである。現在、市内最大の洋館付き住宅である「旧柳下邸」を横浜市緑政局が保全改修し、郷土資料館として整備する計画が進められている。当会ではこれまでに居住者からいただいた大正・昭和のくらしの道具類を展示品としてこの施設に寄贈した。今後は展示企画に参画すると共に各種イベントを開催し、体験できる生きた博物館として教育に役立てて行きたいと考えている。また、この施設を中心とし、市内各所の洋館付き住宅等をネットワークしたエコミュージアムの構想も思案している。

3-3 活動のポイント

3-3-1 活動の人材

黒田泰介（関東学院建築学科講師）

研究室の学生を率いて、実際の建物に触れ歴史的建造物の価値を理解するためのフィールドワークに積極的に参加している。

会の趣旨に賛同していただき、実測調査時や基本設計の過程で協力していただいた。

現在、会の学術顧問。

水沼淑子（関東学院人間環境デザイン学科教授）

大学で教鞭をとる傍ら、県内の様々な歴史的建造物保存活動や市民によるまちづくり運動に対する積極的な協力をしている。

第1回学習会に「和洋のくらし・すまい（家具を使う生活への歩み）」のテーマで講演をしていただいた。

現在、会の学術顧問。

松本高広（（有）松本社寺建設代表取締役）

旧柳下邸の改修工事を施工した大工棟梁。柳下邸を通じて会と出会い、主旨に賛同していただき、数多い文化財改修経験を惜しみなく提供していただいている。

第2回学習会に「木造建築の保存改修哲学」のテーマで講演をしていただいた。

現在、会がコーディネートした磯子区小宮邸の改修工事の施工に当たる。

3-3-2 活動のための資金調達

年会費収入

正会員 5000 円×約 20 人、賛助会員 1000 円×約 30 人、法人会員 10000 円×2

コンサルティング料

改修工事コンサルティングに関わる経費 30～60 万円（調査・基本設計を実費のみのボランティアで行う）

助成金

適宜（今回の様な助成事業に積極的に申込みを行い、会の活動・研究を事業に併せて振興する）

3-3-3 活動のネットワーク、支援

近隣及び全国のまちづくり活動団体等と積極的に交流を行っている。ホームページのリンクに始まり、定期的な交流会や見学会、情報交換会も行う。

交流団体と担当者

- ・ 千森督子氏（黒江ワイワイ協議会/和歌山県海南市）
- ・ 伴 政憲氏（NPO 法人 ヴォーリズ建物保存再生運動「一粒の会」/滋賀県近江八幡市）
- ・ 中村 武氏（NPO 法人 街・建物・文化再生集団/群馬県前橋市）
- ・ 伊郷吉信氏（文京歴史的建造物の活用を考える会/東京都文京区）